

物学研究会@広州ツアーレポート

2018 年 11 月 27 日～30 日



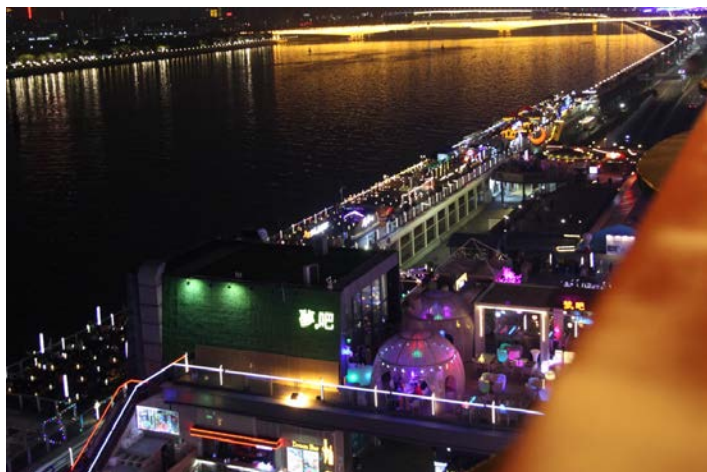
物学研究会は、活動 20 周年を記念し、2018 年 11 月 27 日～30 日まで「物学研究会@広州」を実施。広州は、北京、上海に並ぶ中国三大都市のひとつ。同市で毎年開催される「広州設計週（GUANGZHOU DESIGN WEEK）」は、回を重ねる毎に内容も充実し、中国有数のデザインイベントとして知られている。本企画には物学研究会メンバー 20 人が参加。深圳市に近く、独特の歴史と文化を背景に急成長を遂げる広州市の街と「広州設計週」を体感しながら、今やデジタル化で世界の先端を走る中国のデザインと文化に触れた。

■11 月 27 日（火）

11 月 27 日午後、広州白雲国際空に降り立つ。ホテルに到着後チェックインに手間取り、「広州設計週」の見学を急遽キャンセル。ただ、ホテルの客室は豪華で広く、高層ホテルの窓からは広州市が一望できた。夕方から「広州設計週」の歓迎パーティに出席。元ビール工場だったという建物をリノベーションしたレトロなスペースで、数百人のゲスト全員が着席する華やかな宴会を楽しむ。メニューは地元の鍋料理。中国らしいダイナミックな料理だ。「中国風のおでん」という人も。



1. ホテルの周辺。



2. 麦酒博物館の中にある元ビール工場をリノベーションした「琶醍」という会場。周辺はレストラン、カフェ、バーなどがあり、若者の人気スポットとなっている。



3. 広州設計週の主賓として挨拶する、物理学研究会代表の黒川雅之氏



4. 物理学研究会メンバーも歓迎パーティに招待された。



5. パーティ会場のテラスから見た広州市の夜景

■11月28日（水）

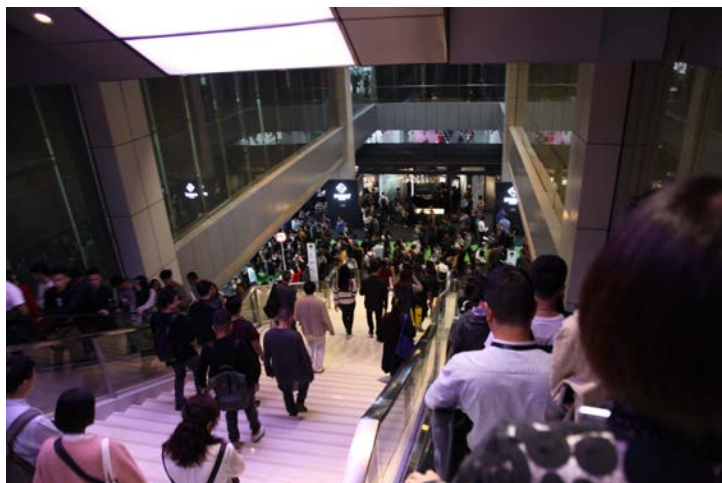
午前中は「広州設計週（デザインウィーク）」を見学。

広州設計週は、巨大な建物が林立する広州市海珠地区（新開発エリア）にある「広州保利世貿博覧会」を会場とする見本市と、海外デザイナーを招聘したデザインフォーラムで構成されている。

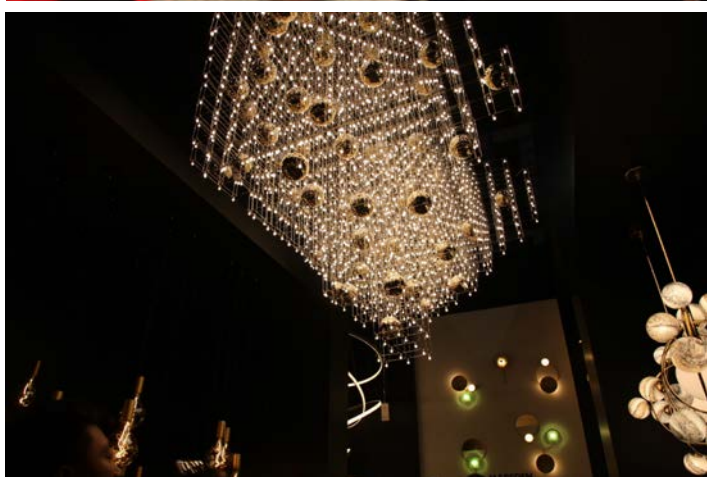
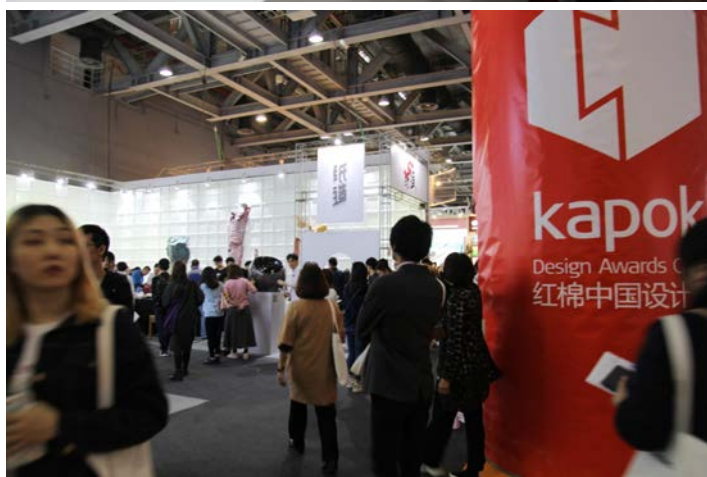
展示会場のエントランスは、午前10時ですで見学者で溢れている。見学者はウィークデイであるのにも関わらず10代、20代の若者が中心で、グループやカップルなど視察というよりも大型ショッピングセンターでのウインドウショッピングという様相。日本の見本市会場が30代～50代が中心で、仕事感が満載なのに比べると対照的だ。

訪問前は、「デザインウィーク」というからには「ミラノ・サローネ」をイメージしていたが、実際には壁・床材、トイレやバス用品、照明器具、システムキッチンなどの建築関係の商材が中心で、家具・インテリア用品、生活雑貨といったデザイングッズはごくわずか。それでもこれだけ多くの人がやってくる背景には、中国の住宅販売事情がある。中国の住宅販売は空間が中心で、壁紙やキッチン、トイレや空調機などの室内デザインはオーナー自らか、オーナーから依頼された専門家を通してデザインされることが一般的。日本のようにインテリア込みでマンションを購入するということではないらしい。だから多くの若者が近い将来の自宅購入の情報収集に来ているという側面もあるのだろう。展示品の第一印象は、豪華さと見栄えの追求、加えて多様性だ。一方で欧米志向のみならず中国独自の美意識や技術を取り入れたデザインなども多くみられた。

会場で特に印象的だったのは、徹底したデジタル化だ。日本の見本市や展示会のように商品の説明パネル、配布用のパンフレットやカタログはほとんど見当たらない。その代わりに会場のあちこちにQRコードのような2次元コードが記されていて、見学者各自が2次元コードにアクセスして必要な情報を得る。その徹底ぶり、ペーパーレスぶりには少々驚いた。2時間余りではすべての会場を見学することは不可能だったが、広州デザインを体感するには十分だった。



6. 人が溢れる会場エントランス。



7. 天津設計週の見本市会場。出展品の多くは、床材、壁材、照明など。どのフロアも人が溢れている。

午後は、広州保利世貿博覧館内の特設会場で開催された「物学@広州設計週」に参会。これは中国のデザイナーと物学研究会メンバーによるフォーラムで、「デザインの思想と表現方法」がテーマ。登壇者によるプレゼンテーションの後、インタラクティブセッションにより意見交換が行われた。会場は 500 人を超す来場者で埋め尽くされた。最初は設計週を主催した CMF の創始者、黄明富氏による挨拶。「広州設計週」の主旨を説明し、その後のフォーラムにつなげた。

2 人目は物学研究会メンバーである、ソニークリエイティブセンターVP の長谷川豊氏。「ソニーのデザイン思想と実践」と題し、多様な事例を交えながらのレクチャーだった。ソニーのイノベーションは「テクノロジー×デザイン」であり、人がしないことを実践することが基本にある。さらに「感動の創出」であり、「機能価値×感性価値」により、感動価値が創造できると述べた。その後、医療機器、ソニーオリジナルのアルファベットフォント、次世代インターフェイス、アイボ、中国東方空港のショールームデザインなど、情報・音響機器にとどまらず広がり続けているソニーデザインの今を紹介した。

3 人目は、Volkswagen China CMF ディレクターの高懋森氏「自動車 CMF デザインの革新とプロセス」と題し、こちらも豊富な事例をあげながら、中国に本格進出した最初の欧米自動車メーカーのデザインの取り組みについて語った。たしかに今から 20 年ほど前は、中国で走っている自動車の大半がフォルクスワーゲン車だった。以降、巨大市場である中国は世界中の自動車メーカーが進出を果たしたが、フォルクスワーゲンの一貫したデザインの現地化へのたゆまぬ努力ぶりが印象的だった。

4 人目はやはり物学研究会メンバーのヤマハ発動機株式会社、執行役員デザイン本部本部長である長屋明浩氏。「ブランディングと経営デザイン—ヤマハらしさの追究」と題し、バイクやボートなどのマリネ製品を扱うヤマハ発動機と楽器メーカーとして知られるヤマハによる「オール・ヤマハ」の活動、「ヤマハらしさ＝コンセプト＋技術力＋デザイン」の三位一体の実践、またヤマハ発動機における CMF の実現などを具体的なプロジェクトを通して説明した。

休憩をはさみ、5 人目はデザイン会社 Cool Design のディレクター 陳銘鐘氏。陳さんはフィリップス、モトローラ、レノボなど欧米電機情報機器メーカーのデザインディレクターを歴任後、自らデザインファームを立ち上げた。「モバイル家電の CMF 設計フロー」と題した講演では、クライアント企業とデザインファームの間で進められるデザインプロセスや決定プロセスに対する問題提起と、より良いデザインを創造するための自らの取り組みについて語った。

そして、「物学@広州設計週」の大トリは物学研究会代表、建築家の黒川雅之氏。「WHAT IS DESIGN | デザインとは何か？」と題し、幸福や喜びという人間の生命の根源から「デザインとは？」を問い、さらに地中海文化、インド文化、中国文化そして日本の歴史文化を振り返る壮大なテーマ設定による講演だった。しかし、黒川さんの順番までに進行時間が大幅に遅れていたため、内容を割愛せざるを得なかった点がとても残念であった。

フォーラムの締めはインタラクティブセッションとして、講演者全員が登壇し、ホストの

黄明富氏の進行により、各プレゼンテーションを補完する質疑応答が行われ、盛況のうちに終了した。



8. ホストの黄 明富氏



9. 物学研究会メンバーである、ソニークリエイティブセンターVP の長谷川豊氏。「ソニーのデザイン思想と実践」について講演。



10. Volkswagen China CMF ディレクターの高懋森氏。講演テーマは「自動車 CMF デザインの革新とプロセス」。



11. 物学研究会メンバーのヤマハ発動機株式会社、執行役員デザイン本部本部長、長屋明浩氏。テーマは「ブランディングと経営デザインーヤマハらしさの追究」。



12. デザイン会社 Cool Design のディレクター 陳銘鐘氏は「モバイル家電の CMF 設計フロー」と題した講演。



13. 物学@広州設計週」の大トリは、物学研究会代表、建築家の黒川雅之氏。テーマは「WHAT IS DESIGN | デザインとは何か？」



14. イタラクティブセッションとして、講演者全員が登壇。



15. 会場は満席。熱心に聞き入る参加者。

■11月29日（木）

この日は物学研究会オリジナルツアー、広州市の歴史と産業を探訪する1日となった。

午前中は、日本の新国立競技場の設計コンペで知られ、2016年に急逝した建築家ザハ・ハディドが設計した広州オペラハウスを英語のガイドにより見学。ザハ特有のコンピュータを駆使した構造設計が実現したダイナミックな空間に圧倒される。

午後は広州屈指の歴史的建造物「陳家祠」を見学後、T.I.T creative park を訪問。元工場や倉庫を現代風にリノベーションしたレトロ感覚あふれる建築が緑豊かな敷地に点在し、趣のあるアパレルやインテリアショップ、カフェに生まれかわっている。またデザインスタジオやアパレル会社のクリエイティブ部門などもあり、地区全体がまさにクリエイティブパークの趣を醸し出している。

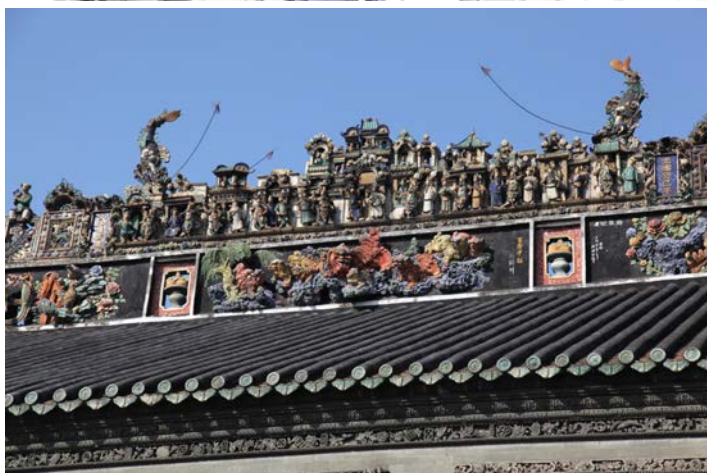
パーク内にある中国有数のインターネット関連会社テンセントのショールームでは、急成長している多様な機能やそれによって実現されるネット社会像のプレゼンを受け、大いに刺激を受ける。続いて、黒川雅之氏がアドバイザーを務め、デザインも提供している生活用品会社 ZENS のショールーム&ショップへ。ZENS は黒川さんをはじめ、nendo など世界からデザイナーを招聘し、モダンでありながら中国の美意識やものづくりの技術を活かした洗練された生活用品や家具を発表し、急成長を遂げている。

その日の晩は、ZENS の CEO であり広州設計週の創始者メンバーでもある超衛平氏の招待により、パーク内にある中華レストラン「老厝晚厅」にてディナーを楽しむ。ZENS 同様に洗練された空間と料理を堪能して「物学研究会@広州」は無事終了。翌日、無事帰路についた。





16. ザハ設計の広州オペラハウス。



17. 歴史的建造物「陳家祠」は、陳氏一族が資金を出て建設した建築物で、主に書院と祠と庭園から成る。それらは伝統的な中国式建築物で、贅を凝らした精巧な広東様式の装飾がほどこされ、古の中国文化を体感することができる。現在は博物館として公開されている。



18. T.I.T creative park。緑豊かな敷地に、リノベーションされたレトロな建物が点在。



19. テンセントのショールーム



20. ZENS のショップ&ショールーム



21. 超社長の招待による晚餐風景。

物学研究会@広州ツアーレポート

写真・図版提供

01；物学研究会

編集=物学研究会事務局

文責=関 康子

- [物学研究会レポート] に記載の全てのブランド名および商品名、会社名は、各社・各所有者の登録商標または商標です。
- [物学研究会レポート] に収録されている全てのコンテンツの無断転載を禁じます。

(C)Copyright 1998～2018 BUTSUGAKU Research Institute.